

■「効果の見える治水事業」

愛媛県 出海川放水路事業(大洲市)

『地域を水害から守る放水路(出海川総合流域防災事業)』



愛媛県南予地方局大洲土木事務所長 田村 弘文

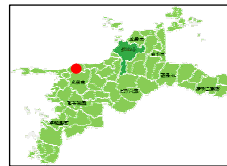
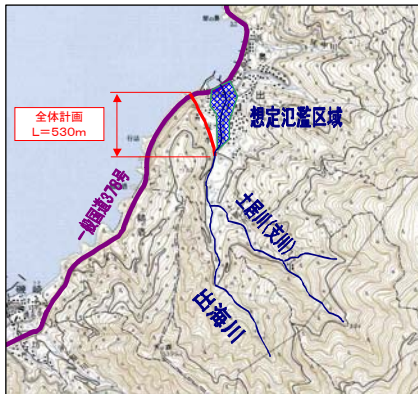
■事業の概要

出海川は、大洲市と八幡浜市の境となる天が森、耳取峠に源を発し、途中、浄心山を発する土居川と合流した後、出海地区の中心部を貫流しながら伊予灘へ至る、流域面積3.9km²、流路延長0.97kmの二級河川です。流域のうち約9割が山地であり、豪雨時には洪水が一気に流下すること、また、下流の人家連担区域は河道が狭く流下能力が低いことから、たびたび溢水による浸水被害が生じ、特に、平成元年の秋雨前線豪雨では123棟(うち半壊1、床上浸水50)、平成10年の台風10号では32棟(うち床上浸水11)の甚大な浸水被害が発生しました。このため、地域住民から河川改修の強い要望が出されました。

河川改修計画の策定に際しては、現況河川の両岸に人家や市道が隣接しており、川幅を広げるには多数の家屋等の移転が生じ多額の費用を要するため、人家連担地を迂回する放水路を計画し、平成15年度から整備に着手しております。

現在、放水トンネルを含む全長469mの放水路は完成し、今年度の出水期から運用を開始しています。この事業の完成により、近年発生した浸水被害は解消され、地域の安全・安心の確保に大きく寄与することとなります。

『位置図』



事業概要
 施工位置：大洲市長浜町出海
 事業期間：H15～H21
 計画延長：L=530m
 (うち放水路L=469m)
 放水トンネル：L=159.0m
 護岸工：L=618.0m
 橋梁工：N=3基

『氾濫状況』



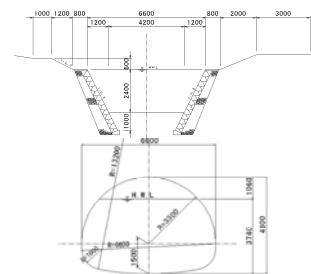
H元.9.12～13 秋雨前線

『氾濫状況』



H10.10.16～17 台風10号

『標準断面図』



『整備状況』



護岸部(H20.12撮影)

『整備状況』



放水トンネル(H18.12完成)

◆「出海地区の浸水被害への取組み」



愛媛県大洲市長 大森 隆雄

大洲市長浜町の出海地区は、愛媛県の西部瀬戸内海伊予灘に面して、八幡浜市(旧保内町)に接する、ちょうど瀬戸内海ベルト地帯にあたります。地形については、無数の山が連なり、山間地に農地が散在し、その間を縫って市道・農道が走っています。また、当地域は瀬戸内海国立公園に位置し、風光明媚な海、山、川と変化に富んだ四季折々に詩情豊かな景観を見せてくれます。

その一方で、出海川は八幡浜市との境となる耳取峠に源を発し、途中、浄心山を発する土居川と合流した後、出海地区の中心部を流下しながら伊予灘に至る二級河川であり、本線の下流域は河積が狭小で、両岸に人家が密集しているため、度々浸水被害に悩まされてきました。そのため、流域住民は防災への意識が高く、出海川の治水対策事業への要望活動を地域一体となって展開されていたことから、本市においては、旧長浜町より引き継がれた重要課題でありました。

その背景を受けまして、平成15年度に国土交通省並びに愛媛県において、「出海川水系河川整備計画」を策定され、それに基づき「出海川総合流域防災事業」の事業採択をいただき、5年間という短期間で、ほぼ完成し、治水安全度の向上を確保できることとなりました。

今後とも、国、県のご配慮を頂きながら、地域における自主防災組織の育成強化に努めてまいりたいと考えています。



H元.9 秋雨前線



放水トンネル(H21.6撮影)